

同乗などを体験。全力リキユラム終了後の30日、松永さんは「青果の荷下ろしが思った以上にきつかった。荷物の選別、荷主とのコミュニケーション」

ドライバーを志望する横須賀総合高の松永さん（中央）と原田社長（左端）、原田宗子専務（30日）

### 栃木協／安全運転競技会

## 永田・高田選手が優勝

【栃木】栃木県トラック協会（石塚安民会長）は7月31日、トラック安全運転競技会を開き、15人の選手が日頃の業務で磨いた技術を競った。優勝には、11トン部門で永田達二選手（関

東西濃運輸佐野支店）が、4トン部門で高田理奈選手（サンコー宇都宮営業所）がそれぞれ輝いた。高田選手は女性部門で10月の全国大会へ出場。11トン部門は永田選手が、4トン部門は

を会場に開催された。開会式では白井社長と、石塚会長の代理として半田臣一副会長が選手にエールを送った。11トン部門には9人が、4トン部門には6人が出場。選手はそれぞれ、学科（400点満点）、運転技能（400点満点）、日常点検（200点満点）で、知識や技術を競い合った。競技の結果、11トン部門

手（サンコー本社営業所）がそれぞれ入った。4トン部門優勝の高田選手は845点を獲得。2位の和氣選手は840点、3位の渡辺邦和選手（宮本運輸本社営業所）は796点だった。

なお、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、閉会式は行わず、競技が終了した選手から解散。後日、結果を発表した。（伊代野輝）

# プロダンサーから転身

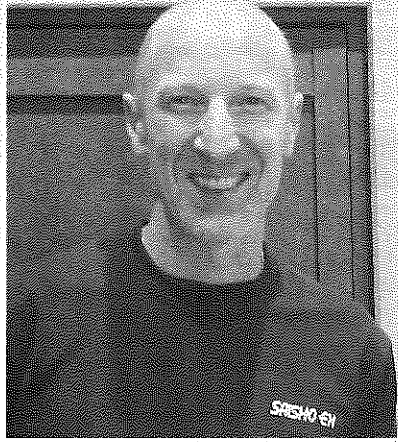
【東京】「トラックドライバーのイメージを、安全で、奇麗で、優しく、礼儀正しく、明るく、健康的なものに変えたい」と話すのも、コーチやメディアの仕事は、サイショウ・エクスペルで、ダンスと関わり続け

（斎藤敦士社長、東京都江東区）のドライバー、マテイ・ザグマイスター氏（48）。スロベニア出身の元プロダンサーで、昨春、同社に入社した。

16歳で社交ダンスを始め、1991年には、旧ユーゴスラビアでラテンアメリカ・社交ダンスのチャンピオンにもなったほどの実力。競技を引退してから

「ヨーロッパでも仕事や休日の買い物のために、よ

「ヨーロッパでも仕事や休日の買い物のために、よ

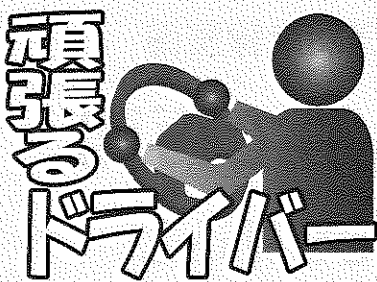


### サイショウエクス マテイ・ザグマイスター氏

「車を運転していた」という。1998年、ダンスの指導者として働くため来日。日本を選んだ理由は「昔から本や映画で見ても、好きな国だった。64年に開業した新幹線や歌舞伎や待映画：」。社交ダンスの縁で日本人女性と結婚し、子供も生まれた。

トラックドライバーになったのは「長距離の旅行や運転が好きで、新しい人や場所に行くのが楽しいから」。サイショウ・エクスペルに就職したのは「この会社はクリーンで、イメージが良かった。社長とも

## 運転者「印象変えたい」



面談し、すぐ信じてくれることができた」とためという。同社ではイベント関係の資材や、スポット便の配達業務を行う。「言葉の壁があるため、運行の前日に、

「Clean（奇麗）」「Polite（礼儀正しい）」「Bright（明るい）」「Fit（健康）」を挙げる。

今後の目標は、トラックドライバーのイメージを変え、開拓すること。ポイントとして「Safe（安全）」「Clean（奇麗）」「Polite（礼儀正しい）」「Bright（明るい）」「Fit（健康）」を挙げる。

次のルートや待機場所を確認するのに時間がかかることが大変」と話す一方で、「トラックの仕事は格好良い。トラックに乗ることは飛行機を操縦することのよ

同社は「新3K」（奇麗・健康・格好良い）の確立に取り組んでおり、ザグマイスター氏も今後、トラックドライバーとして更に経験を積みながら、理想を追いかけていく。

（辻本亮平）